

第36回 独立行政法人都市再生機構 契約監視委員会
審議概要

開催日	平成30年6月8日（金）
開催場所	独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部会議室
出席委員	<p>長沢 美智子（弁護士（東京丸の内法律事務所）） 高木 勇三（公認会計士（監査法人五大）） 鈴木 豊（学校法人青山学院常任監事・青山学院大学名誉教授） 飛松 純一（弁護士（飛松法律事務所）） 水上 貴央（弁護士（早稲田リーガルコモンズ法律事務所）） 鹿野 治雄（都市再生機構監事） 中瀬 弘実（都市再生機構監事） 渡辺 恵祐（都市再生機構監事）</p> <p>※長村彌角委員は欠席</p>
審議事項等	<p>審議事項</p> <p>（1）平成29年度第4四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約について （2）「公益法人に対する支出の公表・点検の方針について」（平成24年6月1日付行革実行本部決定）に係る審議（平成29年度） （3）「平成29年度調達等合理化計画」の自己評価について （4）「平成30年度調達等合理化計画」の策定について</p>
審議概要等	別紙のとおり

(別紙)

意見・質問	説明・回答
<p>審議事項1 平成29年度第4四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約について</p> <p>○前回1者応札の改善率が29.8%であるとのことだが、調達等合理化計画上の数値目標としていたか。</p> <p>○資料の数字の確認だが、様式1-2、平成29年度の関係法人1者応札が87件とあり、一方欄外の注2には関係法人による1者応札のため82件再公募を実施とある。この数字の差は何か。</p> <p>○指名競争入札、関係法人の年間計が1件となっているが、これが87件と82件の差の残りに該当するのではないか。</p>	<p>・平成29年度第4四半期における競争性のない随意契約及び1者応札・1者応募となった契約実績について、前年同期に比しての契約実績額及び1者応札・1者応募の件数の変動要因となっている複数年契約の状況等について説明。</p> <p>・平成29年度第4四半期の契約のうち、前回1者応札であった契約がどれくらい複数者応札に改善したのかを説明。</p> <p>・調達等合理化計画上の数値目標としては設定していない。</p> <p>・確認の上回答させていただく。</p> <p>・そうではないと思うが、確認の上回答させていただく。</p>
<p>【委員会意見】 特段の意見はなかった。</p>	

意見・質問	説明・回答
<p>審議事項2 「公益法人に対する支出の公表・点検の方針について」(平成24年6月1日付行革実行本部決定)に係る審議(平成29年度)</p>	<p>・公益法人については、一般財団法人へ移行したこと、また、機構の関係法</p>

意見・質問	説明・回答
<p>○契約監視委員会の審議対象ではないが、1,000万円未満の公益法人への支出あるいは分割発注はあるか。次回でも構わないので、件数、金額を聞きたい。</p>	<p>人であった(財)住宅管理協会が、株式会社へ移行したことから、点検対象となる公益法人の大半が、点検対象から外れた状況であり、その結果、点検対象となる1,000万円以上の契約については、今回該当がなかった旨説明。</p> <p>公益法人への支出としての点検対象からは外れるものの、随意契約や1者応札といった観点については、契約相手方が公益法人であるか否かに限らず、引き続き、契約監視委員会の点検を受ける旨補足説明を行う。</p> <p>・分割発注ということはない。件数等資料を持ち合わせていないので、お調べし、次回回答する。</p>
<p>【委員会意見】 特段の意見はなかった。</p>	

意見・質問	説明・回答
<p>審議事項3 「平成29年度調達等合理化計画」の自己評価について</p>	
<p>○オープンカウンターの項目について、数値目標は達成できなかったが活動指标的なところでやることはやったことからB評価という結論に異存はないが、このような目標設定の仕方をす</p>	<p>・「平成29年度調達等合理化計画」の自己評価について説明。第35回契約監視委員会の際に、第3四半期までの実績と年度の見込みという前提で仮の評価を実施していることから、今回は数字が確定したもの、あるいは当時と記載内容や評価内容に変更があったものについて説明。なお、評定については、変更していない。</p> <p>・定量的な目標と定性的目標が混在し、定量的な目標が未達であった場合、その評価は非常に難しいが、今回については定性的なところで効率化を図ったとしている。ただ、どの程度</p>

意見・質問	説明・回答
<p>ると、活動指標は数値目標を達成するための手段に過ぎないという面はある。最終的に数値は達成できなかったけれどもB評価、すなわち100%できたということができるのかどうかという基準を設けてもらいたい。がんばったからB評価というのが常態化するのにはよろしくないと感じる。</p> <p>○このような基準はお持ちか。</p> <p>○オープンカウンターの項目について、発注担当者の事務処理の効率化とあるが、発注担当者にヒアリングすれば1時間くらい負担が減って他の仕事ができたと具体的なことが聞けると思うがどうか。</p> <p>○事務処理の効率化を図ったという言及がなく、もの足りない。</p> <p>○定量的な目標は85.5%で未達だが、定性的なところでよくやったのでB評価という説明で今回は終わってしまうということか。</p> <p>○目標の作り方、40%と34.2%の差5.8%が未達ということだが、卸売物価の年間上昇率3~4%を勘案すると評価Bというのは概ね妥当と評価できると思うが、コスト削減率40%を目指すのかというアクションプランと、さらに経済状態は常に変化しているのでその変化を評価の際にどのように勘案するのかということを用意しておかなければならない。そういった点、インテリジェンスが不足しているという印象。論理性をもった目標設定が必要だと思われる。</p> <p>○そういった意味では、数値化できる項目を増やし、その数値がどういった</p>	<p>効率化が図られたかを明確に示すことが難しく、実績の書きぶりは効率化を図ったということにとどまっている。次年度以降、定性的な目標であっても評価をする際にはより詳細にこういうことをして、こういった効果があったという実績を記載できるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準というものは今のところ持っていない。そういった際の基準は、今後こちらで考えていくのかと思っている。 ・ヒアリングをすればある程度効果が見えてくるかもしれないが、何分という時間で測るのは難しいかもしれない。 ・今回はヒアリングまでできておらず、このような記載にとどまっている。 ・今回については、このようなかたちでお願いしたい。 ・30年度計画では、そのような考え方も取り入れた部分もあるので、後ほどご説明したい。

意見・質問	説明・回答
<p>ことで変動しその数値が実績として落ち着いたのかという説明ができると思う。ここ何年か契約監視委員会としては、もう少し数値化して分かりやすくしていただけると良いという意見が出ており、検討してもらいたい。</p> <p>○研修の項目について、のべ人数1,759人とあるが、実人数や職員の何パーセント参加かという表現はできないか。</p> <p>○今回はこれで問題ないが、他法人ではのべ人数は増えているが実人数は増えていないということもあるので、そういった視点も必要かと思う。</p> <p>○契約ハンドブックの「広く頒布する」という「広く」はどういう意味か。より具体的に実績を記載できないか。</p> <p>○契約担当者に必ず頒布するのであれば、「広く」は不要ではないか。必ず頒布するものではないのか。</p> <p>○自己評価の表のなかで、主な評価指標が定められているが、その中身についてももう少し具体的な記載ができないか。現在はほぼ全ての項目が「実施量、実施状況等」とされており、項目によってももう少し具体的に評価指標をあらかじめ計画策定時に定め得るのではないか。</p> <p>○例えば地方独法では、評価指標をずっと数値指標として記載していくというものもあり、本来はそういったやり方がいいと思う。</p> <p>○調達等合理化計画は平成27年度から作成をはじめ、実績を積み上げてきたところ。今後各年度でぶれなく、計画として通年実施したというかたちにな</p>	<p>・そういったデータは持ち合わせていない。のべ人数なので、複数回参加している者もいるかと思われ、実人数としてはこれより小さい数字になると思われる。</p> <p>・計画も同様の記載にしているので、実績についても同じ記載にさせていただいている。</p> <p>・実態としては100%全員とは把握できておらず、ほぼ全員ということなので、「広く」と記載せずとも間違いではない。</p> <p>・30年度の計画については、こういった点まで網羅されていないので、次年度以降になってしまうが、検討させていただきたい。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>るものを目指していただきたい。</p> <p>○あまり数値化した評価目標を設定しないというのは過去の議論を見てもURのカルチャーという印象もあり、改善のためそれに対し契約監視委員会として対応をどう考えるかということの方が生産的かと思う。</p> <p>○目標数値の設定に際しては、1点固定的なものではなく、経済活動による影響も勘案したものにする。また、評価の際に実際に変動した場合には、それにより結果が悪かった場合、それをどう評価するのかということが課題。しかし計画である以上、目標評価に際しては、数値目標があった方が評価しやすい。先ほどあったように、実績数値は未達でも定性的なところをがんばったからBということでは望ましくない。URの文化を打ち破るようなところを一步進んでいただきたい。</p>	
<p>【委員会意見】</p> <p>平成29年度調達等合理化計画の自己評価案について了承する。</p> <p>次年度以降の課題として、定量的目標と定性的目標が混在する項目について、数値目標は未達成だが、定性的事項を達成したことを評価して評定Bという結論を出した項目があるが、そういった場合の評価のルールを検討いただきたい。また、数値目標設定に際しては、どのようにその目標を達成するのかというアクションプランと、経済状況等の変動要因があった時に評価の際にどのように勘案するのかを踏まえるべき。さらに、評価指標についてのより具体的な設定も検討されたい。</p>	

意見・質問	説明・回答
<p>審議事項4 「平成30年度調達等合理化計画」の策定について</p>	
	<p>・「平成30年度調達等合理化計画」の策定案について説明。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>○平成27年度からのアップデート、継続していて、項目によっては毎年行われているものもあり、いつまで掲載するのかという項目もある。例えばオープンカウンターのように毎年30%程度コスト削減し定着しているものについて、継続実施するが計画として掲げるのはどうかといった視点で、来年度以降、新しいアイデアによりだんだんと目標値の達成が厳しくなって目標が下がっていくようなことを避けるためにも、項目の洗い替えを行っていくことを検討すべき。</p> <p>○オープンカウンター方式の予定価格はどのように算出するのか。</p> <p>○予定価格を見積りで算定する時、削減率何%という目標が合理的かどうか疑問。業者が見積を出す際は、一度いくらかで提出し、その後何%減という各社のやり方があるので、もう少し科学性がないと35%が削減率の目標としていいという見方はなかなかできない。</p> <p>○リバースオークションとオープンカウンターについて「厳しい調達環境にあるが」と記載するのは価格面を指したものだと思うが、何が厳しいのかと感じた。家計であれば所得が上がらず厳しいというのはわかるが、URにおいてはどのようなところからくるのかしっくりこなかった。</p> <p>○リバースオークションは論理的に整理すると競争性はなくなっていく。1回の入札であればそうではないが、複数回答ができるリバースオークションにおいては、絶対的に強い者が勝つということになっており、新規事業者の応札勧奨等で「競争性を高めつつ」</p>	<p>・ご意見を踏まえ、次年度以降、新しい項目について計画に記載していく検討を行いたい。</p> <p>・積算できるものは、積算額。積算できないものは見積りを徴取してその最安値や平均値で算出している。</p> <p>・オープンカウンターは複数の参加者を確保することで競争性を高めていくということを意図している。過去の実績を基に、今年度は概ね35%という目標設定としている。</p> <p>・コスト削減に厳しいという意味合いである。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>とあるが、ここの表現については疑問がある。</p> <p>○電力については具体的にアテがあるのか。新電力会社はどのくらいの規模であれば参加するかのスタンスははっきりしていると思われ、事業者と見通しを立てているのではないか。そうであれば、10%削減ということを額面どおり受け止めることがいいかどうか疑問がある。</p> <p>○昨年度の不調不落率が10.4%と非常に低いのは驚いたところだが、おそらく17%前後が一般的なところと思われる。そのかい離は構造的な理由があるのか、あるいはURの施策によるものなのかどちらかと思う。また、不調不落率について29年度の実績を30年度の調達見込みにスライドし置き換えた上で目標を立てるのが望ましいと考えるが、実績の分析はまだされていないとのことなので、目標数値としてはいかがかという感を覚える。</p> <p>○研修が必要であれば、決められた期間内にやらなきゃいけないと思う。「概ね2年間で全職員が研修」とあるが、「2年間」としてもらいたい。ここ数年の不祥事等から契約手続きにおけるコンプライアンス的な感覚が必ずしも浸透していないという印象を受け、徹底されるべき。この点は、URのブランドを著しく傷つけかねないので、ぜひ、よりきっちりとした目標としてもらいたい。</p> <p>○一定の期間の幅を取ったうえで平均の目標を設定することは一定の合理性があると思うが、一度その方向性を</p>	<p>・電力については、いくつかの会社とどの程度削減可能か等ヒアリングしていることは事実だが、入札の結果決定するものであり、どこの会社に決めているというものではない。</p> <p>・詳細な分析までは至っていないが、URの取組みの効果によるものがひとつ、また平成29年度においては比較的不調不落の比率の低い電気系の工事発注が多かったということもあり、そういった率の低い工種で多数発注があると全体実績として低めに出てくる。4か年の実績平均による目標設定ということについては、今までのように前年度の実績を目標とするのがはたしてふさわしいのかという社内的な議論を踏まえ、ある程度の幅を持たせた目標設定としている。</p> <p>・概ねという表現が曖昧さを与えており、ご指摘を踏まえ、「概ね」を削除し、平成30年度の計画とする。</p> <p>・来年度の計画策定に際しては、その基準を継続する認識でまいりたい。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>定めたら、経年での分析ができるよう、ある程度の期間その指標で評価し続けるということが重要。</p> <p>○もっと科学性をもった目標を作成することが今後の道であろうと考える。</p> <p>○いろいろな委員の意見もあるので十分検討いただきたい。今年度は難しいと思うが、ここ数年、契約監視委員会としては、定性的な目標では評価がしにくいと考えてURには数値目標化を提案しており、来年度はより定量的な目標を盛り込んだ計画策定を意識してもらいたい。</p> <p>○調達等合理化計画に数値目標が入っていないものは、あとで年度計画に数値が入るとのことか。たとえば、eラーニングの正答率の数値が計画に入っていないということが総務省の指針に対しても合理化計画の作り方として問題ないということか。</p>	<p>・今回の調達等合理化計画案が年度計画となる。自己評価の際にこういうこともやりましたと記載させていただく。計画の作り方としても問題ない。</p> <p>・調達等合理化計画の平成29年度自己評価及び平成30年度計画案は、本日の審議を踏まえ、今月21日の機構内部の理事会での審議を経て、正式に決定する。また、今月末に国土交通大臣への報告及び機構ホームページでの公表を予定している。</p>
<p>【委員会意見】</p> <p>平成30年度調達等合理化計画案についてURの説明のとおり了承する。</p> <p>本日の各委員の意見を踏まえ、来年度の計画については、より数値目標化することを意識した策定をするよう求める。</p>	